

令和6年度 東久留米市立 第五小学校

学校評価報告書

学校教育目標	○ よく考え進んで行動する子供(知育)	教育 ビジ ョン	【目指す学校像】	児童・教職員が生き生きと活動し、地域に信頼される学校
	○ みんなと仲良くできる子供		【目指す児童・生徒像】	児童が自ら進んで学び、楽しく生活できる学校
	○ 心身ともに健康な子供(体育)		【目指す教師像】	教職員一人一人が熱意と使命感をもち、和を大切に連携して取り組む学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】各教室で机の並び方や板書などにも工夫が見られた。それぞれの教員が、授業改善に努めたことで、子供たちが興味をもって取り組む姿や、互いの考えを深め合う場面も増えた。 【課題】学校図書館の利用率が低く、読書量が少ない。			

東久留米市第3次教育振興基本計画				中期経営目標 (令和8年度までの3年間)	短期経営目標 (1年間)	評価指標・評価基準	自己評価	学校関係者評価		次年度の方策	
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」		取組指標	成果指標	取組	成果	評価		コメント
1	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	人権尊重教育の推進	全教育活動を通して、児童に人権尊重の精神を正しく理解させるとともに、自他の良さを認め、他を深く思いやり、健康で明るく心豊かな児童を育成する。	自己肯定感・他者理解の育成に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を大切に経営をする。 児童理解を深め、課題の早期発見・早期解決に向けて組織的に取り組む。 「自分も大切・友達も周りもみな大切」の合言葉を浸透させる。 教職員個人として人権感覚を磨いている。2 教職員個人として人権感覚を磨いていない1 	3.63	3.25	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 創立60周年に関する取組が多く、「五小」を感じられる1年だった。 地域の良さをアピールした発表内容で愛校心が高まった。 児童アンケートから子供たちが落ちていて学校生活を送っていることが感じられた。 読み聞かせタイムは、読書への興味・関心が高まると思う。 来年度の取組に期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教育活動を通して人権尊重の精神を理解させる 年3回の人権尊重強化月間を通して、自他の良さを認めらるよう、全校朝会で人権に関わる講話をしたり、読み聞かせをしたりする。 「自分も大切・友達も周りもみな大切」の合言葉を掲示したり、呼び掛けたりして浸透させる。 人権作文や標語、ポスターなどに取り組めるように児童に促す。全校朝会や校内放送を活用し、最優秀作品を表彰したり、人権作文を発表したりする。 ふくむニュースレターや使命を全うする、人権プログラムなどを活用して、教員の人権意識を高める。
2	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	いじめ問題への対応	自己肯定感が高まり、他者理解が深まって、全ての児童が楽しく学校生活を送ることができるようにする。	「学校いじめ防止基本方針」に基づいたいじめの組織的な対応と外部機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> いじめに対する意識を高くもち、いつでもどこでもあり得ることを想定して取組を行う。 年3回のいじめアンケートの確実な実施と児童への速やかな聞き取りを実施する。 必要に応じて個別面談を行う。 定期的ないじめ防止対策委員会、生活指導会で情報を全教職員で共有する。 いじめに関する授業を確実に行う。 	3.69	3.25	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感が高まり、他者理解が深まって、全ての児童が楽しく学校生活を送る。 互いを認め合う学級や、児童の居場所がある。 いじめ防止、生命尊重に関する授業を学期に一回実施する。 重大ないじめが発生しない。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめは許されないという意識を向上させる。 年3回のいじめアンケートを確実に実施と児童への速やかな聞き取りを行う。必要に応じて面談し、組織的に対応する。 いじめ防止対策委員会や生活指導会を定期的に開催し、情報を全教職員で共有する。 いじめに関する授業を確実に実施させる。
3	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	規範意識や他人を思いやる心を育む教育の推進	道徳教育の充実	生命を大切にする心、他人を思いやる心の育成をするために、「五小も地域も大切」という、誰にとっても居場所があり、誰にとっても心地のよい学校を目指す。	創立60周年を祝い、日々の道徳や道徳地区公開講座を活用して、「愛校心」「地域愛」の醸成をする。	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業の工夫をすることで、生命を大切にする心、他人を思いやる心を育む。 道徳地区公開講座では、地域人材や保護者を活用した活動を計画する。 地域の自然を活用したり、体験的な活動を充実させる。 	3.44	3	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営に肯定的な意見がある一方、否定的な意見があるが家庭教育の重要性を理解していない。 家庭教育の役割と学校教育の役割には違いがあり、枠外の児童が目立つ。 有線素材で作られた文明の機器を否定できない現代生活に大人も子供も正しい使い方を家庭と学校で学ぶ。 会話を重視した対面による生活を送ってほしい。 大人は、子供の世界の存在も認知した対応が必要。 五小の先生と児童との距離間が非常にうまくいっていると思います。 国語科嫌いな児童が多い。 児童数増加への対応があまり見られない。 校庭や体育備品、ガラス保護などの管理に不足を感じる。 全校児童800人超、多くの友達同士を認め合うのは難しい中「自分も大切、友達も周りもみな大切」の合言葉はとても重要だと思う。浸透していくよう期待している。 谷川俊太郎さんを学ぶとても良い機会があり、これからも谷川さんの詩を通して日本語の親しみ「言葉」を大切に取る取り組みを継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の充実 道徳授業の実践例をOJT研修で紹介させ、授業の質を高める。 地域の自然や地域人材の活用、体験的な活動を充実させることで、生命を大切にする心、他人を思いやる心を育成する。
4	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	特別支援教育の充実	特別支援教育の目的を、児童及び保護者が十分に理解し、必要な教育サービスを積極的に活用しようとする姿勢を推進する。	特別支援教室の充実・不登校児童に向けた更なる取り組み。	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導主任や特別支援教育コーディネーターを中心に、個々の特性に応じた指導をする。 定期的なユニバーサルデザインについて、校内研修を行う。 定期的なケース会議を開き、早期発見・早期対応を図る。 さら教室やSC外部関係機関との連携を密にする。 	3.44	3.19	3.4	<ul style="list-style-type: none"> さら教室やSC外部関係との連携を密にした指導を、個々の特性に応じた指導と不登校児童に向けた取組ができています。 定期的なユニバーサルデザインについて、校内研修を行い、早期発見・早期対応ができています。 ユニバーサルデザインに基づいた、授業改善ができています。 情報共有が学年だけで終わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の充実 定期的な校内委員会やSC連絡会を開催し、情報を共有することで個に応じた指導を推進する。 特別支援教育、ユニバーサルデザインについての研修を実施する。 保護者会や面談などで、特別支援学級などについて紹介することで、児童や保護者が必要なサービスを積極的に活用できるようにする。
5	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	基礎的基本的な事項を着実に身に付けさせるとともに、主体的・対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	学習規律の徹底 基礎的基本的な学習内容の確実な習得	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな学び、魅力ある授業の充実 子供が主体となつたあてから始まり、激遊り終わるスタイルを醸成する。 1単位時間の中で、自分の考えをもち、他者と対話を通して考えを深める場面を設定する。 教員同士が互いの授業を見合ったり、交換授業をしたりする風土を醸成する。 	3.38	3.25	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 対話で深い学びの場面を設定することができています。 東久留米スタンダードの徹底や五小スタイルの授業が定着している。 教員同士が授業改善に努めている。 学習規律が確立できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力の育成 五小ルールの見直し、徹底を図ることで学習規律を身に付けさせる。 1単位時間の中で、個人グループ全体個人といった交流ステップを踏むことで、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。 校内研究として国語科の「書くこと」に力を入れ、自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力の育成を図る。
6	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	ユニバーサルデザインの視点にたった授業の展開やICTを効果的に活用することで、誰もが分かる楽しい授業を継続する。	GIGAスクール構想を受けて、児童が一人一台所持するタブレットや、デジタル教科書の効果的な活用をする。	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究や授業改善の充実 全教科において、計画的にユニバーサルデザインの授業やICTを活用した活動を取り入れる。 ユニバーサルデザインやICTの活用について、校内研修を行う。 	3.44	3.06	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの視点を活かしたり、ICTを活用したりすることで、誰でも分かる「楽しい」授業に取り組むことができています。 8割の授業で上記のことを実施。 9割の授業で上記のことを実施。 5割未満の授業で上記のことを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> OICTを活用した授業改善 デジタル教科書の活用 授業観察では、ICTを活用した場面を必ず取り入れ、どんな時に活用できるのか検証していき、実践事例としてOJT研修で紹介する。 ICTの実践事例を積極的に紹介する。
7	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	子どもの読書活動の推進	教師自身の言語環境を整え、読書に親しむ時間を増やしながら、「言葉」を大切にしている取り組みを通して、正しく美しい日本語の担い手となる児童を育成する。	正しく美しい日本語を用いるとともに、活字に親しむ読書活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の活用計画を再構築する。 図書担当教諭を中心に、図書室の環境整備を進める。 図書委員会による本の紹介を通して、本に対して親しむを持つようにさせる。 週2回、派遣される学校図書司書の活用。 	3.19	2.81	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 読んで読書に取り組む、学校図書館で借りた冊数が昨年度の1.5倍に増加する。 図書担当教諭を中心に、図書室の環境整備を進める。 学校図書館で借りた冊数が1学期より増加している。 学校図書館で借りた冊数が1学期と変わらない。 学校図書館で借りた冊数が1学期より減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動の充実 図書担当教諭や学校図書館司書を中心に、図書室の環境整備を推進する。 図書委員会による読書推進運動の取組をすることで、学校図書館の貸し出し数を増やす。 読書タイムや保護者や地域のボランティアの方による読み聞かせタイムを設けることで、読書に親しませる。
8	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	国際社会の担い手を育む教育の推進	地域と連携した教育の推進	「清流の町 東久留米市」のよさである自然豊かな環境にある本校への愛校心を育む学習や、大型施設を中心とした商店、地域の農家など、この地域を大切にしている心情を育む。	創立60周年の年として、保護者、サポーターズ、青少年協、自治会、老人会及び南中学校と連携しながら、「学校のよさ」「地域のよさ」を学ぶ活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 地域のことについてよく調べ、理解し、自分たちができることを実行することができている。 学校や地域のことについてよく調べ、理解することができる。 学校や地域のことを調べたが、深い理解まで至らない。 学校や地域のことを積極的に調べようとしていない。 	3.38	3.13	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した教育の推進 地域の自然や人材、施設を積極的に活用し、体験的な活動を充実させる。 学校や地域のよさを発信するだけでなく、地域へ還元する活動を取り入れる。 	
9	III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	児童・生徒の安全の確保	地域や保護者と連携した防災教育の推進	地域や外部機関と連携しながら、児童が安全・安心に生活することができる安全教育の推進に努める。	PTAによるバトロールの継続及び、学校評議員・南中地区青少年協との連携を、複数の芽で児童を見守る。	<ul style="list-style-type: none"> 安全教育年間計画を基に、地域と連携して安全教育を推進する。 月に一度の安全指導や避難訓練を通して、児童の安全指導を行う。 教員を対象とした研修を行い、様々な立場の方々が児童の安全を見守っていることを周知する。 PTA防災イベントへの参加 	3.13	3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した安全教育の推進 月に一度の安全教育や避難訓練を通して、児童の安全指導に取り組む。 通学路点検を市やPTAと実施し、児童が安全に登下校できるようにする。 	
10	III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	持続可能な指導体制の整備	教員の資質・能力の向上	教職員が厳正な服務に心がけ、保護者・地域住民が学校を信頼し、連携しながら共に児童の教育にあたることのできる学校を目指す。	今年度からスタートしたOJT研修や服務研修、各研修を充実させることで、教員の資質・能力の向上に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> OJT研修を立ち上げ、計画通りに実行し、全ての教員に対して学校責任力が高い職員を多く育成する。 OJT研修を立ち上げ、主任教諭以上の教員が学校貢献できるようにする。 OJT研修を立ち上げ、主幹教諭が学校に貢献できるようにする。 OJT研修を新設したにも関わらず、貢献する教員が少なかった。 	3.44	3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 学校カリキュラム・マネジメントの強化 キャリアや職層に応じた仕事内容を分担することで、一人一人が責任をもって業務の遂行をする。 分掌を細分化するため新たな部を立ち上げる。 分掌を細分化することで、ベテランが支える事で若手教員の人材育成を図る。 	